

肉の器
R18



御手件と懇ろな
関係になり三ヶ月

夜毎も何度か
共にした

本来武器として
存在していた自分には
得られるはずの無かった
幸せだ…

そう…
自分は幸せだ…

満たされたはずの
心に空いた小さな穴

しかし…人の身とは
なんと欲深きものか…

それは次第に
大きくなった…

自分はこの
男体で顕現した

今更な話だが
男の体では
子が産めぬ

だが人の身を
得た以上
御手杵殿と
共にあった
証を残したい…



そう…自分は
御手杵殿との
ややこが欲しい！

戦うために
作られた己に
そのような
過ぎた願い

願うことさえ
おこがましい
とすら考えた



しかし…

御手杵殿と
肌を合わせ

その腹に
実を結ぶことの無い
子種をいただくたび

その願いは
強くなった…





行商か
珍しいな



ごめんくださいませ



しかし生憎だが
主は今留守に
されている



面白いもの？



それはそれは！
大変面白いものが
手に入ったので

是非にと
思ったのですが…



こちら
なんですがね



お侍様もご興味が
おありで？

いや…自分は…



ゴクハ……

……雄犬が雌犬に？



何かの薬？

なんだ？



別の時代には
高に行つた際
オルトクから偶然
手に入れた物
なんです

なんでも希聖の神に
由来したもので
男女の性別を
逆転させてしまう
薬らしくて……



そんなこと……
可能なのか？
それに危険だろう
そのような薬……

なんせ量が
少ないもんでね

ただオルトクの
商人いわく
犬で試した時は
確かに雄犬が雌犬に
変わったって話です



随分とご興味があるようで

いや！
そうではない！

ただ…世の中には
変わった薬が
あるのだな…と…



きッ！

まあ
これくらい
ですかね



ちなみに…

いくらする
ものなんだ？



旦那様には
よろしくお伝え
くださいませ

えっ



随分と
高価だな

そりや曰の本では
絶対に手に入らない
薬ですからね

それじゃあ
お時間取らせて
申し訳ねえので
そろそろ失礼させて
いただきます



信じたわけ
ではないが…

もし…
もし方が…
この薬が
本物だとしたら

御手杵殿
との証を
残すことも
夢では…

すぐに
戻る!

ちよつと
お侍様!?



カ
カ

カ
カ

カ
カ



有事の時にと思い
少しつつ手当を
溜めたものだが...

これを
使えば...





なんだ!?

地震!?





頼む!

それを
売ってくれ!

ちなみに効果は一日だけなんでよく考えて使ってください

言われるままに買った自分も自分だが...

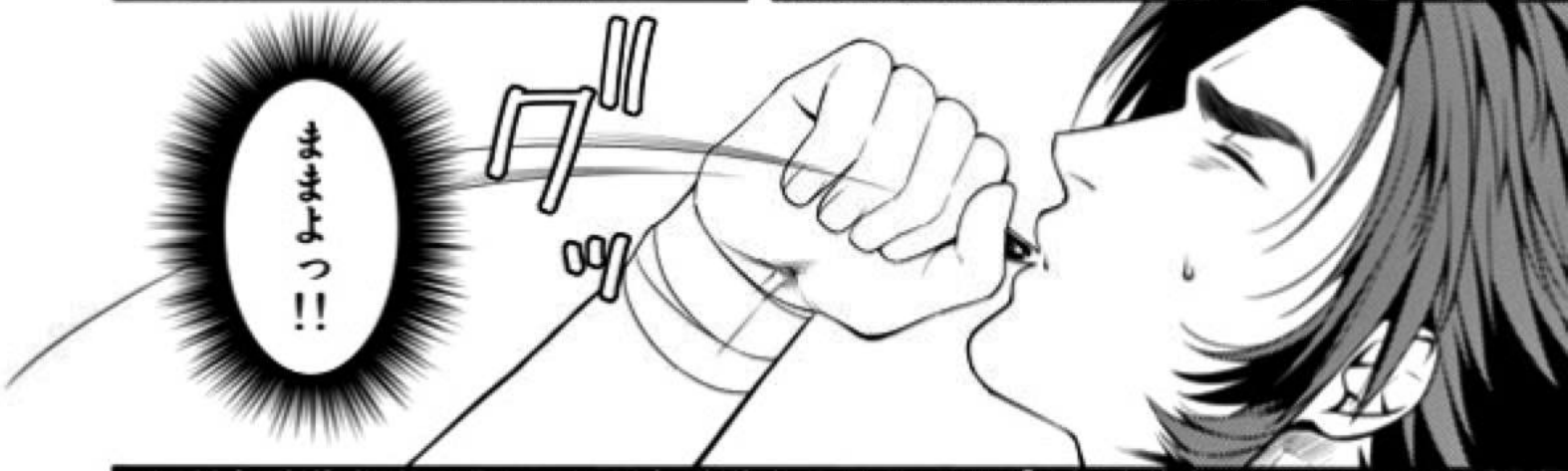
しかも機は一度きりなど足下を見るにもほどがある...



今更後悔しても仕方あるまい!
他に手はないのだ!



思わず買ってしまった...



ままよっ!!



.....

.....



特に変わったところは...



なんだ...?

肩が妙に
重い...



これは!!

おめい!!



1...!



ご覧くださいね！
これで蜻蛉切にも
御手杵殿の——

蜻蛉切？



違う



御手杵殿！

御手杵殿！



あなたは
蜻蛉切じゃない

俺の蜻蛉切は
そんな弱そうな
やつじゃない



御手杵殿！

お待ち
ください！

蜻蛉は……

蜻蛉切は
ただっ——



御手杵殿!!

蜻蛉切？

……切

……蜻蛉切



遠征から戻ったらあんながぶっ倒れてて

自分は...

御手杵...殿



随分うなされてたみたいだけど大丈夫か?



体に変化はないあの薬は偽物だったか...

自分は...

なんと愚かな...



私欲に走る自分をどうして御手杵殿が受け入れてくれよう

己の使命を忘れ...

武器であることを忘れ...





あゝ俺まだ
風呂入って
ないんだけど……



かまいませんぬ……



あんたって
ホント……

タチ悪い
よなあ……



……



あ...

ちゅっ

.....

ク



はや...

あ!

すり...

スリッパ



...もう濡れてる 今日随分と...

んっ

ジュッ



御手杵殿?



?



女陰がある...

まさか…

葉が？

俺っ
審神者に—

!

お待ち
ください！

己の残ましい
願望のため
自らしてかしたこと…

これは自分が
望んだこと…

お…待ち…
ください…

女であれば御手杵殿の
ややこを授かることが
できると…

行商人から
男女の性を
逆転させる
薬を買い…

しかし…
女になるところか
このような
陰陽を合わせ持つ
醜い姿に…

それを
飲みました…

愚かな自分を
軽蔑なされた
でしょう…

でも…もし…
許されるのなら
一度だけ…情けを…
どうか頂けませぬか…



そんなこと
できるわけ
ないだろ！

あなたの体を
治す方が先だ

！

この薬は一晚しか
効力はないのだ！

子を迎える宮も
もう二度と…

子ができなくとも
かまわない…

夢を…
見させてくれ…

……

精始切…

なんで…どうし
ちやっただんだよ

あんだ…
そんな奴じゃ
なかっただろ

精始は…

御手許殿に抱かれ
焦がれるうち
狂ってしまったのです…

ホント…
いかれてるよ

あんだ…

………



でも…
そんなあなたを
愛しく思っちゃ
もう
俺も…

ん…

ん…っ

どうかしてる…



あ

……

お……
御手様殿

そ
その様なこと
せずとも……

んー？

あ……あ

ふ……

アっ

あ……



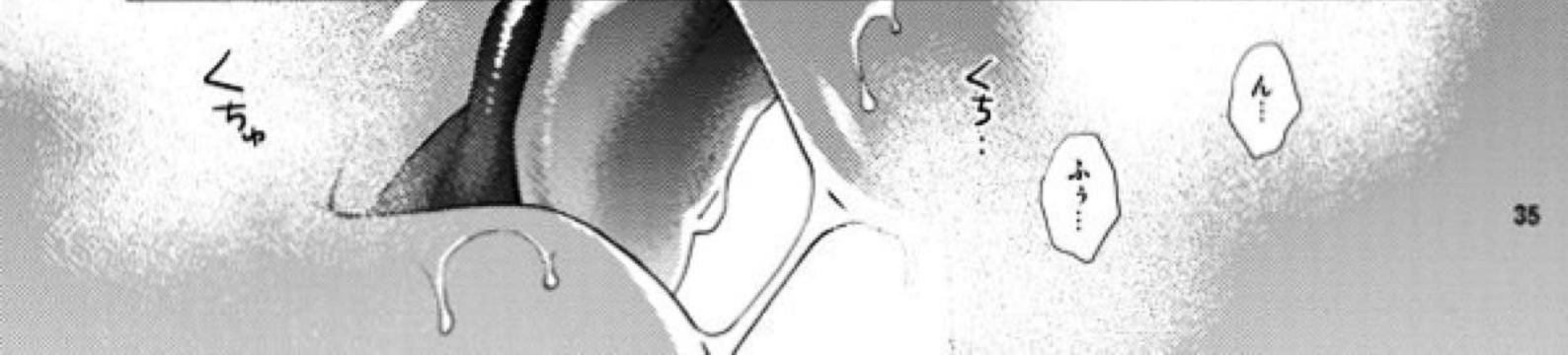
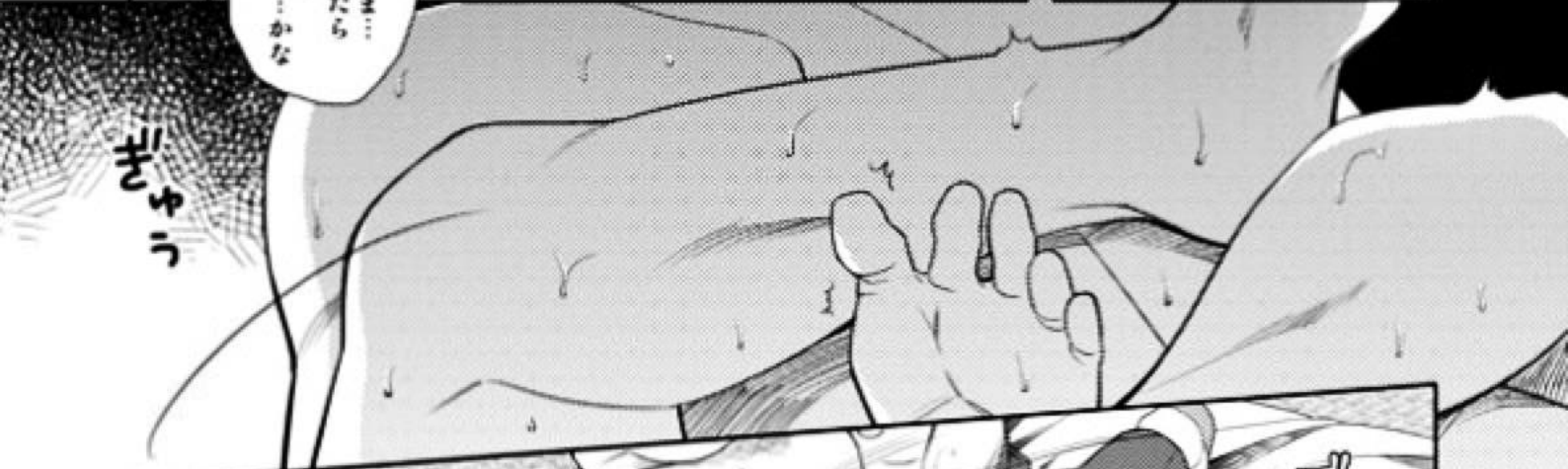
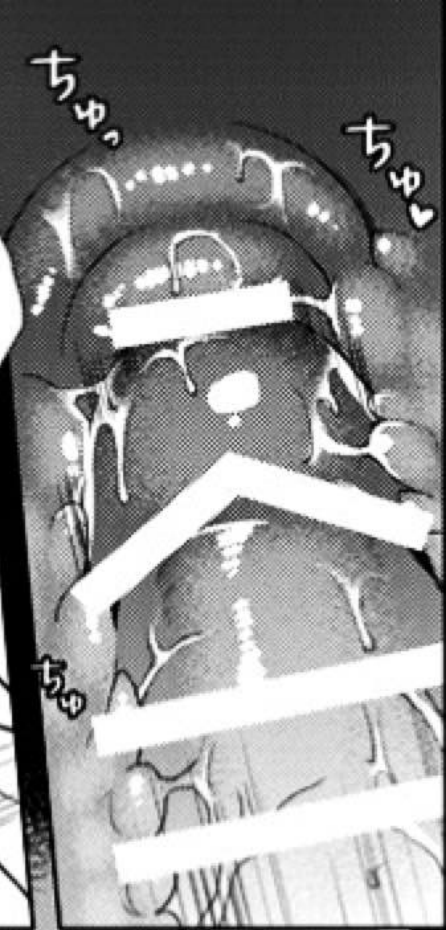






あ……んた
本当に……
女になっち
まったんだな……

この……まま……
中に出したら
子ども……
でさんの……かな





行商の言った通り
蜻蛉切の体は
翌朝にはすっかり
元に戻っていた

元に戻ったあいつは
昨夜のことが
無かったかのように
いつもの蜻蛉切だった

あいつが何故
ここまでして
子を欲しかったのか
分からず終いだっただが

俺はあえて
そのことには
触れない
ようにした



あ…

……まだ
残してる



精進切か？

うん…以前は
何を出しても
納麗に完食
してくれてたのに

体調でも
悪いのかな？

そんな話は
聞かないが…



今度本人に
聞いてみようか



